

# 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな「町田市教育プラン24-28」に基づき、学力・体力の向上に取り組む。ICTを活用した授業実践と校務改善により、新たな教育課題に向け、積極的に取り組む姿勢を大切にする。</li> <li>・よく考える子供の育成に重点を置きながら、基礎的・基本的な知識・技能もバランスよく習得させる。また、よく考える子の育成には、課題解決学習や主体的・対話的で深い学びを通して、思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む態度を育み、学習に取り組む力を身に付けさせる。</li> <li>・学校図書館を計画的に利用し、児童の主体的、意欲的な学習活動や各学年の創意工夫による特色ある読書活動の充実を図る。</li> <li>・一体感をもって教育活動に取り組む教職員を目指し、切磋琢磨する姿勢を大切にする。組織の活性化により、お互いの資質向上を目指していく。</li> </ul>

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問や学習過程の工夫で「分かる授業」「できる授業」を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。</li> <li>・ICTを活用した授業実践に積極的に取り組み、令和の日本型学校教育の多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。</li> <li>・一人一人に配慮した算数の少人数指導を推進し、学力テスト(国・都)の結果を活用した授業改善プランにつなげる。</li> <li>・学習ルールの定着における継続的な取り組みにより、6年間を通して学ぶ姿勢の定着につなげる。</li> <li>・言語能力の向上(聞く・話す力、読書活動の充実)、特に、「自分の考えをもち、分かりやすく説明する力」を伸ばしていく。</li> <li>・クラウド型学習支援ソフトを活用し、一人一人の実態に応じた学習を進めると共に、家庭との連携を図りながら学習習慣を確立させる。</li> </ul>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝えたり、考えを交流したりする機会を多く設ける。</li> <li>・目的に応じた文章を書く力の向上を図るために、具体的な書き方の指導をする。また、日常的に習った漢字を使うよう指導する。</li> <li>・朝読書を行い、学校図書館などを有効に活用し、読書の質を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱や器楽の基本的技能を向上させるために、各学年や個の実態に応じた具体的な指導を行う。</li> <li>・歌唱や器楽アンサンブル、音楽づくりで、グループ活動を取り入れ、自分たちで創意工夫をし、ICTを取り入れながら協働的な探究ができる場面をつくる。</li> <li>・鑑賞活動と表現活動との関連を図り、指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校2020レガシーとして、環境・福祉・国際理解を通して、他者と協働して課題を解決する体験的及び探究的な学習の充実を図り、共に生きる力の育成と自分の生き方を考える態度を育てる。</li> <li>・思考ツールやタブレット端末を効果的に活用し、言語による分析やまとめたり表現したりするなどの学習活動を展開し、実社会・実生活で活用できる能力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通して、人権に関する判断力、社会性、生命尊重、人間尊重の精神を育み、児童の道徳的心情を豊かにするとともに、道徳的な実践意欲と態度を育てる。</li> <li>・話し合い活動やタブレット端末を効果的に活用し、多様な考えがあることを知り、お互いを認め合えるような指導をする。</li> <li>・道徳地区公開講座を行い、保護者や地域との連携を深める。</li> </ul>		
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の視点に着目して問いを設け、比較や分類、関連付け等の思考を経る、問題解決的な学習を行う。</li> <li>・資料から問いに対する答えを見つける学習を通して、資料を読み取る力を育てる。</li> <li>・話し合いで、考えを共有し、深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年や個の実態に応じ、理解や学びを深める指導を行い、知識・技能を高める。</li> <li>・豊かな発想力や構想力を高める指導を行う。導入や鑑賞でICTを使用し、視覚的に指導できるようにする。鑑賞や表現で良さを見つけ合い、多様な価値観を認めあう。</li> <li>・つくりだす喜びを味わい、主体的に取り組む態度を引き出す指導を行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級・学年の活動、委員会・クラブ活動、集会活動、縦割り班などの自主的・実践的な集団活動を通して、思いやりの心や協力する態度などを育み、人間関係をよりよく形成する力を伸ばし、自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</li> <li>・活動を通して、言語や文化に対する理解を深め、自分の考えや気持ちなどを文発話で伝え合うことができるようにする。書く力も中学校に向けて基礎的な力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、言語や文化に対する理解を深め、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な素地や力を養う。</li> <li>・中学年では、「聞くこと」「話すこと」を中心として外国語に慣れ親しませることで、外国語学習への動機付けを高める。</li> </ul>
	算数科	家庭科				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数指導により、個に応じた指導を行い、児童一人一人の学習意欲や学力の向上を図る。</li> <li>・問題の自力解決ができるように、基礎的・基本的な知識・技能についての学習を繰り返し行う。</li> <li>・問題場面を絵や図、数直線、表などを用いて正しく立式させ、友達などの意見を通して様々な考えがあることを知り、説明できる「分かる学力」の向上を図る。</li> <li>・クラウド型学習支援ソフトを活用し、基本的な知識・技能の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・保護者の協力を得て、用具の安全な使い方や技能を習得させる。</li> <li>・効率よく活動を行うために、児童自身に計画を立てさせ、見通しをもたせて取り組ませる。</li> <li>・学んだことを日常生活に生かすことで、心身共に豊かな生活が送れることに気付かせ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の向上を図る。</li> </ul>				
	理科	体育科				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けさせ、自然の事物・現象についての理解を図る。</li> <li>・見通しをもって観察・実験などを行い、過程をまとめることで、問題解決の力や思考力・判断力・表現力等を養う。</li> <li>・理科を学ぶ意義や有用性の実感、問題意識をもって主体的に問題解決しようとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力に合っためあてをもち、解決に向かって活動内容を工夫させることで意欲的に運動に取り組ませる。</li> <li>・仲間と協力して運動することで、運動の楽しさを味わわせ、思考力・判断力の向上を図る。</li> <li>・協力や公正などの態度を育てるために、規則やルールを自分たちで考えたとともに、授業におけるルールの徹底を図る。</li> </ul>				
生活科	外国語科(5・6年生)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年のグループ活動や身近な動植物を育てる活動、校外学習を多く取り入れ、豊かな体験活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学び、ALTや友達と英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図る。</li> <li>・活動を通して、言語や文化に対する理解を深め、自分の考えや気持ちなどを文発話で伝え合うことができるようにする。書く力も中学校に向けて基礎的な力を養う。</li> </ul>					

	見通しを持たせる導入	価値ある対話の共有	ICT機器の活用
本校の授業改善に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入でICTを活用するなど、児童の学習意欲や理解の向上を図る。</li> <li>・自分の力に合っためあてをもち、活動内容を工夫させることで意欲的に学習に取り組ませる。</li> <li>・児童の理解に応じて、指導計画や内容を見直したり個に応じた指導を行ったりする。</li> <li>・3～6年の算数では、少人数指導を行い、個に応じたきめ細かな指導を行う。</li> <li>・学習全体を通して、何を学ばせたいのか、めあてを単元計画で示し、学習の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの教科の単元で比較・検討・分類・統合・関連付けしながら話し合う場面を設ける。</li> <li>・一人一人が自分の考えをもてる場面を設定し、考えをもたせる。</li> <li>・課題に対して、考えたことをノートに書く時間を充分に取り、考えを書かせる。その考えたことを元に友達の考えと比べられるように小グループで話し合い、その話し合ったことを全体に向け発表し、考えたことを教師が価値付けし、全体で共有するとともに振り返りを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用し、児童の学習意欲や理解の向上を図る。</li> <li>・ICT機器の有効な活用の仕方を検討・提案し、活用を推進する。</li> <li>・校内研究では、「課題を解決することを通して、誰もが運動に親しむことができる体育学習」をテーマに、どの場面(導入・展開・週末など)でICT機器の活用が有効か低・中・高学年において、授業研究会と研究授業を実施する。</li> <li>・校内研究で取り組んだことを校内に掲示して全体に広め、ICT活用能力を高める。</li> </ul>